

聖書箇所：マタイ27：1～5、Ⅱコリント7：8～10

タイトル：「後悔」と「悔い改め」

テーマ：「後悔」と「悔い改め」は似ている言葉である。聖書にも登場するが、この2つの言葉の間には大きな違いがある。この2つの言葉を表現するギリシア語も別の単語です。今日の聖書箇所から、私たちが自分たちの抱えている問題について後悔しているだけなのか、悔い改めているのかはっきりと区別をつけ、私たちの信仰を点検してみよう。

はじめに：マタイ27：1～5、では、イスカリオテ・ユダの後悔した姿が描かれ、その悲劇的結末も記されている。一方、Ⅱコリント7：8～10では、パウロは悔い改めがもたらした恵みを語っている。「後悔」とは、「悔い改め」とは一体何だろうか。

本論：

1. 後悔はしたけれど・・・。(イスカリオテ・ユダの場合)

- ①イエスを売り渡した
- ②イエスが罪に定められたあと後悔した。
- ③神の前には出なかった
- ④売り渡した相手からも冷たくされた
- ⑤金を神殿に投げ入れた
- ⑥外に出て行って首をつって死んだ。
- ⑦後悔の結果

2. 悔い改めると・・・。(コリント教会の人々)

- ①文脈の確認
- ②テトスによってもたらされた朗報
  - \*コリント教会の人々が悔い改めた！
  - \*パウロの喜び

3. 聖書が語る「悔い改め」とは？

- ①ギリシア語の「メタノウ」
- ②人生の大方向転換としての悔い改め
- ③クリスチャンの悔い改め
- ④聖霊の働き

結論と適用